

たかつぼの大きな変化

村上岩船福祉会では、昨年度(令和元年)より居宅介護支援事業所の統合が図られています。

昨年度は、『居宅介護支援事業所いわくすの里』と『居宅介護支援事業所さつき園』。そしてこの4月1日より『居宅介護支援事業所垂水の里』と『居宅介護支援事業所たかつぼ』が合併し、たかつぼの居宅介護支援事業所の場所で総合的に業務を行っています。3人から5人となって、にぎやか(そう)になりました。

また、単独での管理者が配置されたこともあり、地域を担うセクションに責任とチームワークが求められるようにもなりました。この人たちがいるから地域が安心できる。サービス提供事業所とのネットワークや情報伝達が、ご利用者様、家族様にも大切な存在であり、この人たちなしには福祉の安心は…と、言っても過言ではないほどたくましい存在です。



『こんな介護士になりたい…』

一人の介護士が5月31日を持って退職されました…。

「これから送別会をはじめます」と、司会者が話し始めると、突然「ダメだ。離さない。」と声が響いてきました。えっ？えっ？どこから… みんなが驚いた瞬間、その介護士が、一人の男性ご利用者のもとへ駆け寄っていきました。

「そんなこと言ってくれるのは、あなただけ…」と言いながらも、職員誰もが「おいしい」「もっと続けてもらいたい」「居てくれるだけで、声を聴くだけでモチベーションが保たれる存在」と惜しまれながら、その、ご利用者の言葉に胸を打たれました。どれほど利用者から愛されていた介護士であったのか…。

人事考課の面接で、多くの職員から聞かれた言葉が『あなたにあえてよかった』といわれる介護士、担当の介護士になりたい。その言葉は、一瞬かもしれませんが非常に重い言葉です。まして、私たち職員より人生経験豊富なご利用者様からしたら、80年、90年、100年生きてきた中で、私たちが関わらせてもらった時間なんて、ほんの一瞬。その中で、「あなたにあえてよかった」なんて言ってもらえたら、関わらせていただけたら、どれだけ幸せなことでしょう。

福祉の仕事は大変な仕事です。その仕事を弱音も吐かず、黙々と、丁寧に言葉をかけながら、身近な世間話で場を盛り上げようと、日々奮闘している介護士に頭が下がります。たまたま、異動してきた施設で、施設長をさせてもらい3か月が過ぎましたが、かかわりの少ない私にまで「ありがとうございます」と頭を下げてくれるご利用者様に、介護士さんが日々一生懸命お仕事をさせてもらっている評価であると感じる毎日です。そんな感謝の気持ちが介護職員の支えになっているようにも感じます。新型コロナウイルスの脅威とともに感染症対策で、自分自身にも気を遣い、上司にも気を遣い、その状況で、これだけの成果が残せる業務をしっかりと行っている姿、立派だと感じました。長い間、大変お疲れさまでした。

